

【奨励賞】

「北方領土、自由訪問の今後」

札幌市立藤野中学校

2年 宮谷内 勘太

僕は八月二日、「令和元年度第五回自由訪問」に参加しました。僕が上陸したのは国後島の礼文磯、乳呑路、オダイバケの三か所です。そこでは、散策や住居跡を見たり、慰霊碑に行き手を合わせました。ですが、行った場所はどこも住んでいた痕跡はなく、草が生い茂っていました。なので、あまり昔の暮らしがわからず、あまり情報を得られませんでした。三か所の視察を終え、八月五日の十二時頃、下船しました。

ここからが本題です。僕が自由訪問に行き、問題点が見つかりました。それは、情報の少なさです。前までは元島民が多く参加していて、故郷を見て数少ない記憶に浸ったりしていたでしょう。大体の人が島が昔どういった感じだったか、どういう建物があったのか少しはわかっていると思います。なので、場所の説明、ここで何をしていたなどは言わなくてもよかったです。ですが、今は元島民からの参加者は四分の一で、他は僕のような祖父母が元島民だから来ることができる二、三世代です。二、三世代は、初めて自由訪問に来る人が大半で、元島民もどんどん減っている中、三世代が返還要求運動を受け継がなければなりません。ですが、現状として、二、三世代のほとんどがわからないまま歩いています。このままでは、受け継いでも語り手が減る一方です。なので、職員が元島民から話を聞き、現地で説明をするなどの工夫をし、情報を与えるのがよいと思います。船内で話を聞くより、現地で見ながらの説明をした方が想像ができ、わかりやすくなるはずです。これで後継者として受け継ぐことができると思います。多くの人に島のことを話し、二、三世代に頑張ってもらいたいという願いは少しの工夫で多くの人に届くと思います。

僕は、元島民の子、孫として自由訪問に来ていることは、来たくても来られない人がいる中で奇跡だと思います。元島民は積極的に昔の島の様子や自分、親の体験を話す。職員は元島民の話を資料にしたり、上陸をスムーズにする。二、三世代は、元島民の話に身を傾け、情報を取り込み少しでも多く帰ったときに話す。これをするだけで、質の良い自由訪問になるはずです。今のままでは、返還は厳しいと思います。ですが、三世代で力を合わせることで、返還は実現すると信じています。